

＜ブゾーニ没後100年記念企画＞ (1866-1924)

ーオリジナル・編曲・被献呈作品によるピアノ音楽史ー

ブゾーニ

創造・再生・反響

Ferruccio Busoni

演奏：金澤 攝 Osamu N.Kanazawa



入場
無料

「令和6年能登半島地震・豪雨チャリティーコンサート」

当日会場で募金を募ります。こちらからピアノ調律費用と演奏者旅費を控除した金額全額を珠洲市、輪島市へ寄附します。

事前申込み制 / 整理番号順入場

Halle Runde (名古屋市昭和区桜山町)

このコンサートは2025年1月18日の振り替え公演です。

後編

2025年
5月10日 [土]

15:00 開演 (14:30 開場)

【チケットの申込はこちらから】

<https://dbf.jp/runde/r250510/>



「20世紀のブゾーニ」

*未就学児のご入場はお断りいたしております。

『花東よりチケットを』

ルンデでは出演者のプレゼント等は受付にてお預かりいたしません。そのお気持ちをチケットにかえて、ご家族、ご友人とお越しいただきましたらうれしく思います。

フランツ・リストに並ぶ、史上最高のピアニストとされるフェルッチョ・ブゾーニ。彼は同時に作曲家として、新音楽の預言者でもあった。後進の世代に与えた影響は計り知れない。1970年代あたりから、ブゾーニ作品の本格的なリヴァイヴァルが始まり、大部分の作品は今日録音で聴くことができる。

それでもなお、その価値は限られた一部の愛好家の支持にとどまり、大多数の音楽関係者にとって、ブゾーニはバッハの編曲者の域を出ていない。

その理由は大きく2つ考えられる。1つは変幻自在なブゾーニの創意は固定された一つの作曲家像を結ばないこと。もう一つは作曲と演奏の双方を創作活動の両輪としたブゾーニにとって、演奏はリアルタイムの“作曲”であり、創意を用いない、楽譜を音にするだけの演奏では容易に価値が伝わらないからである。実際当時はブゾーニ自身が弾いてさえ、一般大衆には理解し難いものであったようだ。極めて知的なブゾーニの音楽の奥には、言語や感情を超えた神秘的“ひらめき”が存在する。これが伝わらないのである。

だが同時代の才人たちは、彼を理解していた。今回のプログラムはブゾーニの作・編曲に加え7人の作曲家によるブゾーニの献呈曲を組み込んだ。ブゾーニより年長者が4名、年少者が3名である。その7曲を2群に分けてまとめ、その間と前後にブゾーニ作品を配する形をとった。その上で全体が時系列に沿うように構成されている。ブゾーニの創作力が低下した時期は、即ち演奏活動にウェイトをかけていた時期であり、彼への献呈作品がこうした時期に多くみられるのは自然なことだろう。こうした事情が当プランの成立を可能にしている。

7人の異才たちの作品は、それぞれがブゾーニが投げかけた問題提起への応答であり、リスペクトの表明である。ブゾーニの作品も演奏も、彼自身をもよく知る人たちが描いたブゾーニの肖像がそこにある。

これらを通覧することで、19世紀から20世紀にかけての音楽シーンの中核的なシナリオが、あたかも同一の作家の創作史の如くに立ち現われる。

2024.9.23 金澤攝

前編：2024年11月25日(月) 「19世紀のブゾーニ」

<第1部>

前奏曲とフーガ ハ短調 Op.21 BV85 / 村の祭日 Op.9 BV185 / 夜想舞曲 Op.13 BV189

田舎者と農民たちの行進曲 Op.32 BV193 / ワーグナー=ブゾーニ：「神々の黄昏」より ジークフリートの葬送行進曲 BVB111

変奏形式のエチュード Op.17 BV206 / パレエーション 第2番 Op.20 BV209 / バッハ=ブゾーニ：前奏曲とフーガ ニ長調 BVB20

<第2部>

ブラームス=ブゾーニ：6つのオルガン・コラール前奏曲 Op.122 BVB50 / フルガッタ (Giuseppe Frugatta 1860-1933)：幻想曲とフーガ Op.46

フーバー (Hans Huber 1852-1921)：6つのエチュード / サントー (Theodor Szántó 1877-1834)：2つのエチュード・オリエンタル Op.1

ウェーバー=ゴドフスキ (Leopold Godowsky 1870-1938)：「舞踏への招待」による幻想曲

後編：2025年5月10日(土) 「20世紀のブゾーニ」

<第1部>

クリスマスの夜 BV251 / シェーンベルク=ブゾーニ：ピアノ曲 Op.11 No.2 BVB97 / ソナティナ 第2番 BV259

モーツァルト=リスト/ブゾーニ：「フィガロの結婚」による幻想曲 BVB66 / バッハ=ブゾーニ ゴルトベルク変奏曲 BVB35

<第2部>

ワーグナー=モシュコフスキ (Moritz Moszkowski 1854-1925)：「トリスタンとイゾルデ」より「イゾルデの死」

ストックホフ (Walter W.Stockhoff 1876-1968)：ピアノソナタ

エマニュエル (Maurice Emmanuel 1862-1836)：ソナチネ第4番「ヒンドゥーのモードによる」

3つのアルバムプレッター BV289 / ポリフォニー演奏育成のための5つの小品 BV296 / アルペジオ風のプレリュードとエチュード BV297

※曲目が一部変更になる可能性があります。

チケット販売 ▶▶ ブレイクカフェ (Halle Runde 1階)

Web Live Concert 同時開催 ルンデ会員登録が必要です。詳しくはルンデWebサイトのチケット購入ページでご確認ください。

感染症対策のためのお願い

・発熱 (37.5℃以上) および体調不良の方のご来場はお控えください。公演後でも構いませんのでご連絡いただきましたら、ルンデ主催の他公演への振替をいたします。

・マスクをご持参ください、ロビーより着用をお願いいたします。

・感染症の流行状況により、席数を減らして公演を行う場合がございます。ご希望の席をご用意できない場合がございますことご了承ください。

・詳しくは下記 URL よりご確認ください。

[Halle Runde ポリシー]

<https://dbf.jp/plazza/index.cfm?page=hallpolicy>



一般財団法人 ルンデ

〒466-0044 名古屋市昭和区桜山町1丁目21番

TEL：052-846-8566 / E-mail：runde@dbf.jp

[アクセス]

ホールへお越しの方の駐車場ご利用はお断りいたします。

名古屋駅からは、名古屋市営地下鉄桜通線

金山駅からは、名古屋市営バスをご利用ください。

・名古屋市営地下鉄桜通線・鶴舞線「御器所駅」3番出口

・名古屋市営地下鉄桜通線「桜山駅」1番出口

・名古屋市営バス「桜山」

(それぞれ徒歩10分程度)

<https://dbf.jp/runde/>

